環境経営レポート

対象期間　２０２２年３月～２０２３年２月

発行日２０２３年　　３月３１日

株式会社　　美加川製作所

環境経営方針書

基本理念

株式会社美加川製作所は、事業運営の中において環境保全活動を推進すると共に、環境経営を通じて社会と自然にやさしい企業を目指します。

環境経営方針

1. 当社は、電磁継電器金属部品の熱処理加工及びその他部品製造組立において発生する環境負荷への継続的改善を推進してまいります。

2. 当社は、環境関連法に基づく法令・条例等及び顧客の要求事項を遵守します。

3. 当社は、事業運営の中において、以下の目的・目標を定め環境保全活動に取り組んでまいります。又、目的・目標に対しては１回./ 年の見直しを行います。
   ① エネルギー（電気、LPG）使用量削減
   ② 水道使用量削減
   ③ 廃棄物の減量化
   ④ 化学物質使用量の把握と適正な管理
   ⑤ 熱処理炉の効率的稼働による環境負荷改善

4. 当社は、事業活動を通じて、環境保全に対する意識の向上と目標達成を、図るため全社員に対し教育を行ってまいります。

5. この環境方針書は必要に応じて一般に開示します。

２００２年　７月　１日　制定
２０２０年　３月２７日　改訂
株式会社　美加川製作所
代表取締役　髙畠　正幸

１．取組の対象組織と活動内容

１）　事業者名及び代表者名

株式会社　美加川製作所

代表取締役　髙畠　正幸

２）　所在地

熊本県山鹿市久原４２３０－１６

３）　環境管理責任者及び連絡先

責任者　森本洋春

連絡先　TEL　０９６８－４４－７４４４

FAX　０９６８－４３－２３３１

E-mail　info@mikawa-ht.jp

４）　事業の内容（活動内容）

金属熱処理

マグネットリレー部品の磁性焼鈍、金型の焼入れ

その他部品製造組立の受託

但し、取り扱う製品そのものの企画・設計・製造・販売等はこれを含まない

事業の規模

	単位	２０２０年度	２０２１年度	２０２２年度
従業員数	人	１７	１２	１２
延べ床面積	m^2	１３００	１３００	１３００

６）　事業年度

３月～翌年２月

７）　ＥＡ21　実施年度

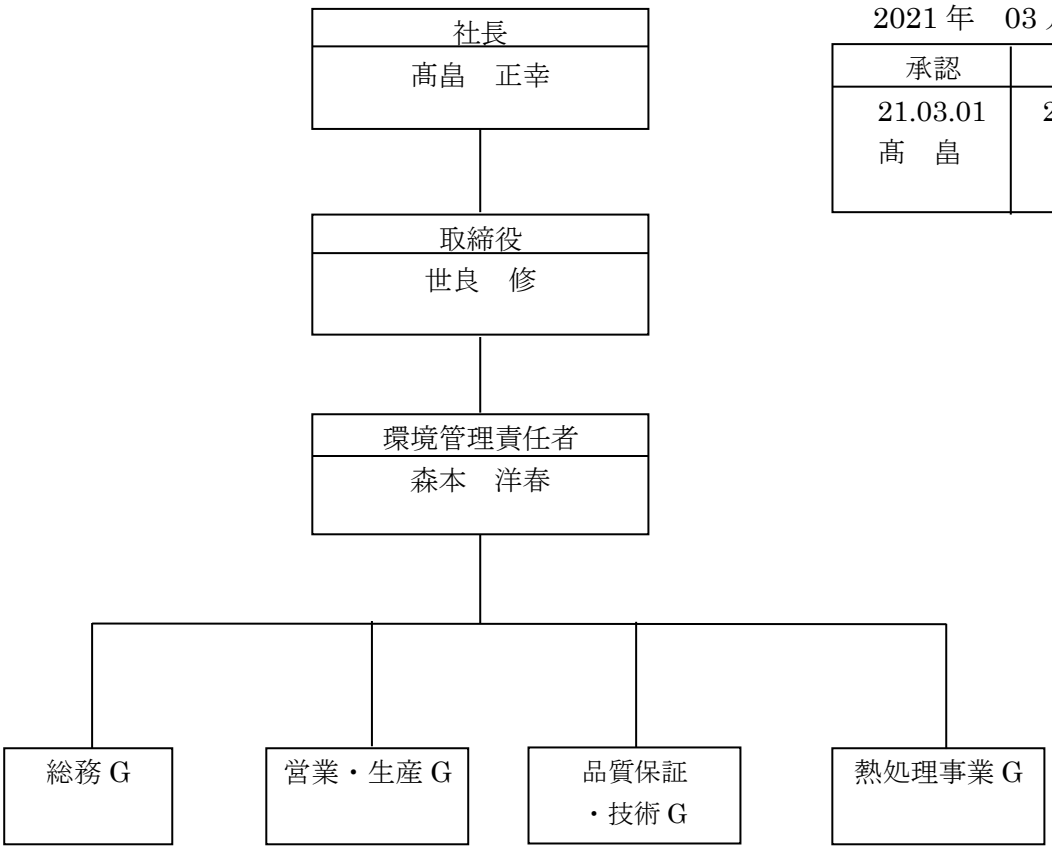
２０２２年3月～２０２３年2月

８）環境保全組織図

株式会社　美加川製作所　　環境保全組織図

2021 年　03 月　01 日

承認	作成
21.03.01 髙　畠	21.03.01 森　本



１）環境保全組織の役割と権限

①社長
- 環境方針の制定
- 環境管理責任者の任命
- EA21 推進に必要な資源の提供
- 評価と見直し

②環境管理責任者
- EA21 システムの構築　維持改善
- 環境目標設定と進捗管理
- 教育訓練の統括
- 外部苦情の対応窓口

③部門長及び担当者
- 緊急事態の対応
- EA21 の目標達成に向けた活動
- 改善のための提案

２．2021 年度環境経営目標（2022 年 3 月～2023 年 2 月）と実績及び評価

2.1　目標と実績

当社において 2018 年度実績値を削減基準として、環境負荷低減活動としてエネルギー消費量｛電力及びガス(LPG)｝の使用量削減、産業廃棄物｛炭化水素系洗浄液使用量｝の削減及び　水使用量の削減その他環境負荷改善に取り組んだ結果を以下にまとめた。尚、電力の排出係数は 2017 年度公表の九州電力実係数（0.463）を使用した。

	項目		2021 年度実績	目標値	2022 年度実績	評価
1	二酸化炭素（ＣＯ２）　総排出量（以下、内訳）		467,662Kg-CO_2	462,985Kg-CO_2	476,682Kg-CO2	×
①	電気使用量	CO2 排出量	419,503Kg-CO_2	415,308Kg-CO2	428,424Kg-CO2	×
②	LPG 使用量	CO2 排出量	40,500Kg-CO_2	40,095Kg-CO_2	40,500Kg-CO2	×
③	ガソリン	CO2 排出量	3,513Kg-CO_2	3,478Kg-CO_2	3.518Kg-CO2	×
④	軽油	CO2 排出量	3,616Kg-CO_2	3,580Kg-CO_2	4,240Kg-CO2	×
⑤	灯油	CO2 排出量	528Kg-CO_2	523Kg-CO_2	0Kg-CO2	○
2	水使用量	実績値	3,971 ㎥/年	3,931 ㎥/年	3,436 ㎥/年	○
3	廃油排出量の把握及びリサイクル	排出量	800Ｌ／年	800Ｌ／年	800Ｌ／年	○
		リサイクル率	100%	100%	100%	○
4	洗浄液削減（HC250）	購入量	1,600Ｌ／年	1,600Ｌ／年	1,600Ｌ／年	○
	化学物質の購入量の把握と適正な管理	硝酸（液体 ml）	1,500ｍｌ	購入量の把握と適正な管理の実施	1,000ｍｌ 管理は適正だった	○
		メタノール	0ｇ	購入量の把握と適正な管理の実施	0ｇ 管理は適正だった	○
5	製品にかかる環境負荷改善		336/45h 86.6%削減	条件変更時のロス時間 90%以上削減	344/7h 98.0%削減	○

〈　備考　〉

１）廃棄物について、製品は顧客支給のため製品由来の廃棄物は発生しません。
　廃プラ（製品梱包）も把握しているが自助努力が困難なため目標にはしていない。

２）ＨＣ２５０(洗浄液)とは、脱油（脱脂）のための高機能炭化水素系洗浄剤のこと。
　（炭化は酸化の逆反応）

３）硝酸とメタノールは、エッチング検査工程で使用する試薬（薬剤）です。

４）製品により温度条件が異なるため、無駄のないロス時間を出さないものづくりをする。

2.2 主な環境活動計画、取組結果とその評価

	目標項目	主な活動計画	取り組み結果と評価
1	二酸化炭素(CO2) 総排出量の削減	以下の通り	以下の通り
①	電気使用量の削減	受注量に応じ使用設備の待機・停止を行う。 同時に待機電力も削減する。 エコサーバーを活用しピーク電力量の管理をする。	目標達成できなかった。 使用量削減に注力が必要 生産量の増加も要因の１つと考えられる。
②	ＬＰＧ使用量の削減	生産量に応じ稼働設備減に努める。	目標達成出来なかった。 効率的な設備稼働要。
③	ガソリン使用量の削減	効率的な営業ルート及び配送 アポイント訪問	目標達成出来なかった 次年度努力が必要。
④	軽油使用量の削減	効率的な配送ルート 他社便の有効活用	目標達成できなかった。 次年度努力が必要。
⑤	灯油使用量の削減	省エネ	目標達成でき評価出来る。
2	水使用量の削減	水道設備の保全を徹底する。 配管からの漏洩チェック、循環水の横溢確認をこまめに行う。	目標達成でき評価出来る。
3	廃油（洗浄液） 排出量　Ｌ リサイクル１００％	排出量の適正管理を行う。 産廃業者へのリサイクル確認	ドラム缶（200L）での排出量及びリサイクル共に把握できており評価できる。
4	洗浄液削減 （HC250 購入量）	設備からの漏れの有無を確認する。 購入量を把握する。	目標達成でき評価出来る。
	化学物質の購入量の把握と適正管理 硝酸 メタノール	硝酸、メタノールの保管・表示・使用等にわたり適正な管理を実施する。	硝酸･メタノールは適正な使用と管理を実施し、購入量を記録した。
5	製品にかかる 環境負荷改善	特殊条件を集積し、ロスの 70%以上を削減する。	目標達成でき評価出来る。

3. 今後の（単年度及び中期）環境経営目標

以下の項目を環境経営目標とする。

	項　目	2023 年度 目標値	2024 年度 目標値	2025 年度 目標値
1	二酸化炭素 総排出量の削減	前年度比 1%減 476,682Kg-CO2（前年度実績） 471,915Kg-CO2（今年度目標）	前年度比 1%減	前年度比 1%減
①	電気使用量 の削減	前年度１%減 428,424Kg-CO2（前年度実績） 424,140Kg-CO2（今年度目標）	前年度実績比 １%減	前年度実績比 １%減
②	ＬＰＧ使用量 の削減	前年度１%減 40,500Kg-CO2（前年度実績） 40,095Kg-CO2（今年度目標）	前年度実績比 1%減	前年度実績比 1%減
③	ガソリン使用量 の削減	前年度１%減 3,518Kg-CO2（前年度実績） 3,483Kg-CO2（今年度目標）	前年度実績比 1%減	前年度実績比 1%減
④	軽油使用量 の削減	前年度１%減 4,240Kg-CO2（前年度実績） 4,198Kg-CO2（今年度目標）	前年度実績比 1%減	前年度実績比 1%減
⑤	灯油使用量 の削減	前年度１%減 0Kg-CO2（前年度実績） 0Kg-CO2（今年度目標）	前年度実績比 1%減	前年度実績比 1%減
2	水使用料の削減	前年度１０%減 3,436 ㎥/年（前年度実績） 3,402 ㎥/年（今年度目標）	前年度実績比 １%減	前年度実績比 １%減
3	廃油（洗浄液）排出量 の把握とリサイクル	排出量の把握 リサイクル　100%	排出量の把握 リサイクル 100%	排出量の把握 リサイクル 100%
4	ＨＣ２５０の購入量 の把握	1,600Ｌ／年	1,600Ｌ／年	1,600Ｌ／年
	硝酸・メタノールの 適正保管と購入量の 把握	適正な管理と 保管状況	適正な管理と 保管状況	適正な管理と 保管状況
5	製品にかかる 環境負荷の改善	98.0%削減（前年度実績） 344h（対策無しの無駄） 7h（対策後の無駄） 90.0%削減（今年度目標）	90.0%削減	90.0%削減

３.-1　次年度の具体的な取組内容

３-1-1　＜電力消費量の削減＞

受注状況に応じた設備停止による電力の削減と効率的な設備稼働を行う。

又、最大使用電力量を削減するために電力監視サーバーを活用する。

３-1-2　＜ＬＰＧ使用量の削減＞

炉の併用を実施し使用ロスの削減に努める。

３-1-3　＜水使用量の削減＞

引き続き毎月配管からの漏洩チェックを行い設備冷却用循環水の横溢を確認し、

厳寒期は止水栓による断水を実施し配管破損による漏水を防止する。

クーリングタワーを更新する。工場内の一時保留水オレンジタンクの監視を強化する。

３-1-4　＜廃棄物排出量の把握＞

排出量の管理を徹底する。

３-1-５＜化学物質使用量の把握と適正な管理＞

硝酸・メタノールの購入量を把握するとともに、適正な管理を実施する。

３-1-6　＜製品にかかる環境負荷改善＞

引き続き同条件集積によるロスの削減を実施記録する。削減目標９０％以上。

４．環境関連法規への違反、訴訟の有無

4-1　環境関連法規の遵守及び違反の有無

当社は「環境関連法規遵守チェック表」を用いて 2023 年 3 月 29 日に環境法規制の遵守活動を行い、マネジメントレビューでその遵守評価を行った結果、遵守しており環境関連法規への違反はありませんでした。

4-2　指摘、訴訟等の有無

環境法規制の順守活動を通して、関係当局よりの違反等の指摘はありません。

また、周辺住民からの苦情もなく、訴訟についてもありません。

4-3　熊本県夏の省エネコンテスト表彰（2013 年 10 月 24 日）

５．代表者による全体の評価と見直し

令和４年度はエネルギー価格、資源高となり経営的に厳しい状況に落ち入った。特に電力、ガス、洗浄液は弊社にとって重要な生産補材である。従っていかに効率的に運用して削減していくかがポイントである。

電力面においては従来の設備別電力消費量監視に加え、全体での電力ピークを抑えるべくデマンド監視装置を導入。個々の設備と全体で管理できるよう体制を整え令和５年度にその成果を見いだしていく。

次にガスついては

① 窒素ガスは個別容器調達からタンクローリー調達に切り替えた。

② LP ガスについては令和５年度より連続炉生産からバッチ式生産に切り替える検討を行い、LP ガスの低減による-CO_2 ガス発生量を押さえていきたい。

以上に注力し今後活動していく。

2023 年 3 月 29 日　髙畠　正幸